

「おんやりょう」

感想文集

NPO法人 ふなばし演劇鑑賞会



何気なく知っていると思っていた消防・救急の世界を、深く知ることができました。シリアルな内容を明るく、時にはコミカルに演じられていて、楽しく観られました。「木遣り」の声が素晴らしいかったです。

(演の会 菅谷恵子 70代)

人命が優先の中、消防士や救命士の葛藤がよくわかり、自分の命を顧みず本当にすばらしい仕事だとわかりました。仕事に誇りを持つてることが、本当に仕事だと思いました。

(イヴ 金子雄一 40代)

皆さんの見事なセリフ回しで、自然に消防署の中を見ていくような気分でした。(ワディ＆ホライズン)

磯野順子 60代)

セリフのテンポが良く、ユーモアが良かった。(パンプキン 狩野美奈 50代)

日々の出来事の中で、何か問題が出来た時は、自分がどう動くのか考えさせられました。

(ハッピープリンス 田中弘之 60代)

消防のお仕事の大変さが良くわからりました。特に女性がこの分野で働き続けるのは、相当の覚悟が必要だと思いました。リスト、良い掛け合い! 参加できただようで幸せです。

(ラ・シーケ 無記名 60代 女)

木遣り唄を聞けて得した気分でした。明るい気持ちになれる劇でした。(ラージーと元気な仲間たち)

西山麻弥 40代)

(ガーベラ 奥田和佳 小学6年)

とても身近に感じた話でした。色々細かい問題があるのがわかつた。とても良かった。真摯に仕事に向かっている人に感謝を思いました。

(なでし) 小出厚子 60代)

(三番瀬 鈴木千津子 80代)

木遣りの素晴らしさに感動した。体の調子が悪く、やつと会場に来たがとつても良かつた。

(あひるの部屋 無記名 70代 女)

とても感動的で良かったです。

(じんじん 無記名 女)

ステキなお芝居でした。会員である孫に観てほしいと思いました。ゆっくりパンフレットみて…。おんやりようはとても良い声でしたね。命の大切なギリギリの状況が想像できて、本当にお芝居を観たな! 舞台上の別の世界に入り込んだような気持になり、色々考えさせられました。

(あひるの部屋 無記名 70代 女)

壁に貼つてあった消防車の絵が可愛らしかった。お菓子の件も面白かった。隊員同士の掛け合いから、彼らの人となりや人生が見え、それらが消防署の雰囲気を形作っていた。もう少し話の展開があると良かった。

(亜童夢 神原健人 高校3年)

色々な問題を要領よく、ユーモアもちりばめて、とても良く出来ていたと思います。演者の力もそれぞれ良くて、みんなに是非見せたい劇でした。

(あひるの部屋 伊藤千恵子 70代)

私のデスクはどうだったのでしょうか。自分が舞台上で、皆さんのセリフをきよろきよろ聞いて、心にとめていたよう

山さんと多田さんが話している時がめっちゃ頭に残りました! おんやりようの唄がもっと出るかと思ったんですけど、1回だったので(お話の中)、それはそれで面白かったです。

救急、消防の職業の事、知ったことたくさんありました。木遣り唄良かったです。

(無記名 70代 女)

会報にあった「おんやりよう」の意味は自分には良く分からず、劇が始まりました。木遣りの唄を聞いても、響きは伝わりますが意味は？？です。後半の消防署内の雰囲気と、ラストの前日の夕食で作り残った豚汁にうどんを入れて、翌朝、24時間勤務を終える段階でスタッフみんなで食べ始める所で終了していたのを見て、自然と嬉しくなりました。この作品に出会った事が心の内側でバンザイです。

一人一人の個性がわかりやすく、セリフも聴きやすく、日常の中のさり気ないことが大切に感じられました。そもそも知らない自分が見て楽しめるのかな：「と不安になっていました。消防の中にも救命士と一般消防士の間で、色々な問題をそれぞれ抱えながら、一つ一つの業務をこなしていたので、その姿が本当に凄いなと思いました。人助けが日常になっていて、仕事にそれが自分なりに情熱を燃やして頑張つたし、懸命に働いているのを見たが、嬉しくて、辛い事もあるはずなのに、それでも互いに指摘をしあつて成長をさせ合っている姿が素敵だなと思います。

（ハイネ 中川奈津子 60代）

消防・救命、大事な話が多くのセリフをテンポ良く演じられて、とても気持ちが良い作品でした。

（ワディ＆ホライズン）

磯野吉哉 60代

具体的な話でわかりやすかつたが、何を伝えたいか、インパクトがなかつた。

（じんじん 小笠原 70代 女）

何をつかんだのかはうまく表現できていませんが、嬉しいです。ありのままの姿を教えてくれてありがとうございます！と出演者の方々や、劇団の方々に伝えたいです。（効果音の決まり方とピピピッと連携しているだらう？：観客には見えない所がとてもグッドに感じ入りました。）（ユミ丸 Y・K 70代 女）

現代の内容で面白かった。あまり詳しきない職業だったが、2つの仕事人の間の葛藤や衝突が心を震わせた。シリアルな場面と、おふざけの場面のバランスが良くて引き込まれた。途中のおんやりようの唄も素晴らしくて、そこだけでも行つた価値があつたと思う。1人で歌つている時も迫力が凄かつたけれど、最後に皆で歌うところはより力強く、重厚感があつた。

次はどんな職業かを先に調べておくと、より楽しめると思った。また観たい。

（花いかだ 吉田葵 高校2年）

消防団の日ごろの活躍、大変さがにじみ出でていて良かったです。木遣りも声がすばらしくて良かった。

（岡田幸子 70代）

（無記名 60代 女）

めっちゃくちやいい声でした。女性の仕事のあり方も考えるような演劇でした。ありがとうございました！

（サモトラケの二ヶ 亀田智恵 20代）

私は今回の劇を観て、消防の事について詳しく知らなかつたから、「なんにいる以上に大変で、やりがいのある仕事などと感じました。この職に限らず、どの職も気の合う人や合わない人と様々な人と出会う中で、けんかし合つたりしながら、自分なりに頑張りながら「大変だけど楽しむ」というのを目指にやつていくのが一番なのかな…」と思います。

（フージーと元気な仲間たち）
新井菜々美 高校3年

消防署の人たちの一日というお話をしたが、消火活動や救助活動に命がけで向い、適切な処置をすることを一日一日行つてることを、改めてすごいと思いました。救命をする中で、仲間同士ぶつかり合うのも仕方がないなと思いました。その仲間同士がぶつかり合う緊張した場面を作り出したり、人が怒る時の動作や話し方、消防署の仲間たちが仲良く話している様子などがとても自然で、自分も消防署にみんなといいるような気分になり、すごいなと思いました。

小林さんの「おんやりよう」の声が、マイクなどを使わずに劇場に大きく響いていて、すごいなと驚きました。

（フージーと元気な仲間たち）
鍛冶屋ひな 高校3年

朗々たる木遣り唄には全く驚かされた。まさに、「さあ、いくぞ」と云う気持ちが搔き立てられ、一挙に芝居の世界に引き込まれた。消防署の“はなし”でりながら、主役は火災ではなく、救急救命士の日常的な生活であったのが新鮮で好感が持てた。

そんな中で消防士の使命感や危険を省り見ない情熱がとりわけ心を打ち、後々迄残る強い印象を残した。「人間の存在意義」や「人間の情熱の崇高さ」を改めて深く考えさせられる一体化するという好例であろう。

消防の方々の日常が、よくかかれていてすばらしかつたです。私も消防でアルバイトをした事があり、本当によく取材されている内容だなと思いました。救急で、大した事がなくても、出動される消防の人々、本当に頭が下がります。自分自身を守りながら、他人のために頑張つている方々を思うと、本当に素晴らしいです。キヤストの方々も本当に適役で、また違う作品を観たいです。ありがとうございました。

「おんやりよう」という、みんなで作業する時に歌う、歌った後けんかしてしまうけど、終わりに近づいていくにつけ、和解していくのが面白かったです。

これまでにいくつも劇をみてきたけれど、場所が一定で場面の切り替わりの時間が数時間単位で、2日間を詳しく描いた劇を観るのは初めてで、とても不思議な感じで面白かった。私の母も、面白くて初めて一回も寝なかつたと言っていた。また、私はこの作品を観て、知らない所でも事故や事件が起きていて、それを助けてくれる人がいることがわかった。そして、お互いに尊重し合いながら仕事をする」とが大切だと思った。私は、三浦君の「ありがとうございます」を「あざつす」と言つたり、日報に「みんなと一緒に楽しかった」と書いてあつたり、マドレーヌの数をしつかり数え、一人何個までと決めたり、食事のことだけうるさいなどの動きなどが、突つ込みどころ満載でとても面白かった。だけど、根はいい奴でなんか憎めなかつた。また、三浦君とその同期の子が腕相撲をしている所で、どちらが勝つたのか気になつた。個人的には、同期の子に勝つてほしい。

木遣り唄がとても良かつたです。表情の細かな変化が良く分かり、心を動かされました。

（ハイネ 鈴木るり子 70代）

消防士の一日は大変だと初めて知りました。

(子育てネット 後藤つばめ 小学5年)

ないどこか地方と設定されている。だが、劇が始まると同時に、隊長をリーダーに朝の消防隊の会話が始まる。隊員達のきっぱりした応対と直立の朝の挨拶の姿勢が印象に残った。他方、彼らの会話のうちに観客は理解し始める。彼ら消防隊は農業と兼業ではあるが、すでに組織化され、活躍中で

ある」と、さらに隊は消防士と救命士とに分かれていることである。

想の救急隊を作らうと努力している。確かに、消防隊は消防車と救急車を共に発進させる。双方、助ける者も助けられる者も、生きるか死ぬかの瀬戸際に立たされる事も多いだろう。彼らは庶民には英雄である。だが、劇はそんな気負いを見せず、

淡々と彼らの人間としてのセリフを重

ねて行く。普段はあまり脚光を浴びることの少ない消防士を劇に取り上げたことは、本劇のすぐれた評価である。また一方、本筋とからみあいながらも本筋ではない形で示されたが私が気づいたことが二つある。

(1) 救命員、消防士を希望する女性を登場させていること、(2) 本劇初演の作者・演出家が女性(内藤裕子)であり、また千葉県船橋市民文化ホールでの上演のリーダーは女性が多かつたことである。—舞台監督はたかのきよこ、制作は嶋田みどり。そして劇中では、女性救命士の恋愛と結婚問題が示される。

彼女(さとうゆい)は若い隊員の結婚の申し出にははつきりした答えを出さず、最後まで救命士として生きることを希望し続ける。劇の終わりは彼女にライトを当てた。働く女性の結婚問題、これは、筋としては脇筋に過ぎないが、初演時にはかなり新しいテーマであつたと推察される。

以上は、当時も今も、当劇制作と上演にかかわった女性陣の、もうひとつ社会的な女性進出への願いをとどめた意図があつたと理解したい。なお、最後の、民謡的に謡われるおんやりとうの謡は見事であった。リアリズム演劇に芸術性を付け加え、今の時代を江戸の火消しに結びつけた。つややかな声で叫ばれる民謡。芸術性と現代性が輝いた。

(一)との葉 水崎野里子 70代

期待しないで観に来たのですが、救急車の実態と、その中で働く人の様子がよくわかり、とても面白かったです。

救急車に2回乗った事がありますが、隊員の方の心意気が伝わってきました。これからも頑張ってください。

(フエローシップ) 無記名 70代女

消防署の様子が、このお芝居を通じてよくわかりました。専門用語が出来たけれど、何とか少しづつ理解出来ました。何より、テンポの良いお芝居でとても楽しめました。ありがとうございました。

おんやりようの言葉が何のことかわからないままです。消防の人助けに一生懸命な女性に感心します。このような女性はいっぱいいると思います。若い人たちに、その生き方を皆さん知らせてほしいです。 (山彦 田村 70代)

特殊な職業の人たちを演じられて、色々大変なことはあると思いますが、見ていて「ちらは本当にその世界で働く人たちの日常を見ているような、不思議な感覚になりました。人の心の動きが感じられ、とても面白く考えさせられました。「おんやりよう」が本編でもう一回くらい出てくるかと思つていたので、ラストはちよつとあつさりかなとも思いましたが…でも良かったです。

(無記名)

消防署はなくてはならないとは思つてゐるけれど、最近火事も少ないし、暇な仕事だと思う反面、いざ現場に赴くことは命懸けで大変なことだろうな、くらいに安易に思つていた。

けれど、おつとどつこい、けつこう守備範囲がひろく、安心して庶民が生活していくのに欠かせない責任ある大事な仕事であることを、この「おんやりよう」という初めて聞く言葉の芝居で知つた次第。そういうえば、10数年前に小学生も怪我をして救急車に乗せられたことがあつたことを思い出した。

ただ、幕開けから終幕まで場面に変化が乏しく、会話だけで話を進めていくのに観客は眠気を催さないだろうか。もと消防士とかいう初老のお爺さんの木遣りの透きとおる美声が、頭の芯を清々しく通り抜けていき、初めて聴くその素晴らしい肉声に感じ入つたが、これを工夫して所々で聞かせてくれると、眠気を催すころに眠らずに芝居にのめりこめるような気がするけれど、脚本を読んでいないが、いかがなものか。

ふな演での東京芸術座公演は7年前の「蟹工船」以来だが、併せて思うに、人生にまつすぐ取り組む人たちの話を、観客に清々しく物事を考えさせる舞台に仕上げて見させてくれる劇団だと知つた。

蛇足だが、遅ればせながらあらためて「村山知義自叙伝」でも読んでみようと思う。

(マゴメ ムラタ)

“おんやりよう”とは何だろう？と事前配布資料も読まずに参加して、江戸木遣り唄に一本〆と会場を一つにする唄声に魅了されました。

地域の防災、そして緊急医療の日常を舞台にする時、あるある！わかる！とひざ打つ場面の多い事(笑)。知識の大切さと、誰でもいつでもお互いに助け合える存在なのだと感動して、シナリオに敬意を表します。

PS.パンフレットには、東京石神井の消防署見学や、実際の消防士さんたちの一日の流れや、救命士さんの資格が載っていました！（良い芝居の訳だね～！）（ナイス、Z 善木しのぶ 60代）

座席がラッキーで、よく聞こえ、観ていて身近な問題であり、舞台劇が十分楽しめた。笑えたり、消防や救急の苦労を感じ、感謝を改めて思えた良い作品だった。

（じんじん） 無記名 70代 女

今回の劇の「おんやりよう」は、とても面白く素晴らしい作品でした。

向後拓海 高校2年)

おんやりようというタイトルが、木遣り唄のセリフだったということに驚きました。素晴らしい木遣り唄で、最後まで樂しませて、ござきました。

(演楽2784 中川昌子 60代)

A yellow envelope with a red seal containing the text '祝 あめでとう' (Happy Birthday) and a small green ribbon.

おめでとうございます！

「おんやりょう」サイン色紙当選者
1326 じんじん 小笠原幸子さん
1402 パンプキン 狩野美奈さん
2324 ワディ&ホライズン 磯野順子さん
※当選した方は申し出てください。

アンケート枚数 49枚	(回収率3.4%)
当日会員数 1,771名	
例会参加者 1,459名	(参加率82.4%)

1人1人の役がよくはまっていて、職場のチームワークも良く出ていて、演劇を見ているという感じが全くせず、職場の一場面を見ている感じでした。

（原島 70代 女）

楽しかつたです。（ベリーーズ 成沢恵子）

最近テレビで観たドラマを思い浮かべながら観ていました。命と向き合う厳しい職場でも、普通の職場と同じ人間関係の営みがあり悩みがあり、それらを、笑いを織り混ぜながら浮き彫りにしてくれました。観終わつたあとに様々な余韻が残り、「さあ、明日も笑顔でがんばろう～」という気持ちになりました。ありがとうございました。

(原島 70代 女)